

3つ目は「世界とつながるコミュニケーション能力のかん養」です。グローバル化が加速する社会において、多様な価値観を持つ人々と協働できる力は極めて重要です。そのため、中学校英語科教員による小学校高学年への乗り入れ授業を積極的に推進し、専門性の高い指導で英語への興味・関心を高めるとともに、小中接続の円滑化を図ります。また、田中学園との連携事業や、A・L・Tによる「ECクラブ」の継続に加え、長期休業期間中にはオールイングリッシュのアクティビティを取り入れた「ECレク」を実施するなど、学校内外で生きた英語に触れる環境を充実させ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする「使える英語」の習得を目指します。

さらに、英語検定への挑戦を公費助成等により後押しするとともに、青少年海外研修事業をはじめとする異文化体験の機会を創出します。多感な時期に世界の現実に触れ、日本やふるさとを客観的に見つめ直す経験を通じて、広い視野と異文化に対する理解を持ち、国際社会を舞台にたくましく活躍しようとする高い志と意欲を醸成



令和7年度の青少年海外研修事業では、インドネシア共和国バリ島を訪問しました。

## 2 豊かな心と 健やかな体の育成

自己肯定感を高め、他者と共に生きる豊かな心を育むため、以下の3点を重点施策として展開していきます。

1つ目は「安心感のある学校風土と自律的な心の育成」です。生徒指導提要の理念を具現化し、全ての子どもが「自分は大切にされている」と心から実感できる居場所づくりに全力を注ぎます。多様な背景を持つ子どもたち一人ひとりに寄り添うため、校内教育支援センターの機能を充実させると

もに、デジタル教材等を活用した個別最適な学びの提供により、誰一人取り残さないきめ細かな支援体制を構築します。

また、豊かな人間性のかん養には、子ども自身の主体性が不可欠です。児童生徒が主体となる「子ども会議」を活性化させ、いじめ問題の撲滅や校則の見直しによるより良い学校づくりに参画する自治活動を強力に推進します。

さらに、一流の専門家による音楽指導や芸術鑑賞など、本物の文化芸術に触れる情操教育との連携を深めることで、豊かな感性を磨き、他者を尊重し共に生きる、温かく思いやりのある心を育みます。

2つ目は「体力の向上と望ましい生活習慣の確立」です。全国体力・運動能力、運動習慣等調査などの結果を詳細に分析し、その課題に基づいた体育授業の改善と質的向上を図るとともに、家庭や地域と連携して、子どもたちが主体的に運動に親しむ習慣化を目指します。また、睡眠不足や長時間のメディア利用による生活リズムの乱れなど、子どもたちの健康を取り巻く現代的な課題に対し、白糠町生徒指導連絡協議会や学校保健



給食への理解をより深めるための給食試食会を開催しています。

3 信頼される  
学校づくりの推進

地域と学校が協働し、社会総合力で子どもたちの成長を支えるため、以下の3点を重点施策として展開していきます。

1つ目は「地域とともにある学校づくり」です。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）における熟議を一層活性化させ、学校の課題やビジョンを共有することで、地域住民や保護者が学校運営の当事者として参画できる仕組みの強化を図ります。特に、地域特性を踏まえた防災教育の実践など、子どもたちの命と安全を守る取り組みを強力に推進し、「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成と、学校と地域の強固な信頼関係の構築に努めます。

2つ目は「教師の力量向上とウエルビーイングの確保」です。白糠町教育研究所を核とした研修体制を充実させ、若手からベテランまでが互いに学び合い、複雑・高度化する現代の教育課題に柔軟に対応できる専門性の向上を図ります。同時に、統合型校務支援シス

テムの活用など、校務DXの推進や業務の徹底した適正化により、教職員が心身ともに健康で、ゆとりを持って子どもたち一人ひとりと向き合う時間を十分に確保できる「働きがいのある職場環境」を整えていきます。

3つ目は「地域全体で子どもを守り育てる体制づくりの推進」です。町の宝物である子どもたちが安心して学べるよう、各家庭への入学支援金と副教材費の補助、給食費無料化の取組を継続していきます。

また、児童生徒数が減少している茶路小中学校については、豊かな自然に囲まれた小規模校の特性を生かし、少人数ならではのきめ細かな指導や体験活動を希望する児童生徒の受け入れなどについて、地域や関係機関とも綿密に連携を図りながら検討を進めていきます。

白糠高校への支援につきましては、これまでの取り組みの成果として、町内進学率の向上および新入学生徒数が増加傾向となっております。そのような中であっても、今後も中卒者数の減少が続くなどの厳しい現状を踏まえ、引き続き多くの生徒に選んでもらえる魅力

協議会等を通じて、家庭との協力、連携のもと、情報端末利用のルールの見直しなど具体的な改善策を提示し、将来にわたり心身の健康を守り抜く正しい生活習慣の確立を強力に支援していきます。

3つ目は「地産地消や環境を考慮した食育の推進」です。地元生産者の協力のもと、今後も地産地消を意識した「ふるさと給食」の推進と「町民試食会」の実施を継続するとともに、栄養教諭を中心とした食育を通じて残食を減らし、環境負荷の減少に努めます。

また、安全で安心な給食を提供するため、経年により老朽化しつつある施設整備と調理設備の更新を計画的に実施していきます。

ある学校づくりを進めるとともに、児童生徒や保護者へのPR活動や進路指導の充実を図っていきます。

また、本年度から新たに、民間で運営する学生寮の運営費に対する支援を実施し、町で管理運営しているからまつ寮とともに、全国各地から白糠高校へ入学する生徒のため、受入体制の充実を図っていきます。

さらに、これまで本町において幼少期から一貫して取り組んでいる語学教育のさらなる向上と未来を担うグローバルな人材育成を目的として、白糠高校に在籍する町内出身者の中から希望者を選抜し、海外英語圏の高校への1年間にわたる留学事業を実施していきます。

## 3 社会教育の充実

### 1 豊かな心を育む 生涯学習の推進

生活に潤いをもたらす生涯学習社会を実現するため、以下の2点を重点とし、実践していきます。

1つ目は「まちぐるみ運動の推進」です。三愛運動を継続的に奨

励するため、愛の声かけ活動などにより効果的な普及・啓発活動を進めるとともに、まちづくりにつなげる学習機会の充実を図り、各種団体等による活動の推進に努めていきます。

2つ目は「ボランティア活動の推進」です。ボランティア活動への継続的な支援と啓発活動に努めるとともに、社会教育関係団体等の協力を得ながら新たな人材を発掘し、教育現場や高齢者大学等の積極的な活用につなげていきます。



令和7年度の白洋大学では、60歳以上の高齢者33人が学び、生涯学習の実践に努めました。